

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 11月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	0172300154		
法人名	有限会社 老古美興産		
事業所名	グループホーム「そよかぜ」岩内		
所在地	北海道岩内郡岩内町字栄2番地10 (電話) 0135-62-1100		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年11月2日	評価確定日	平成21年11月20日

【情報提供票より】(21年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・(平成) 14年 12月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 8人、非常勤 1人、常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル 造り
	2階建ての 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 20,000円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,100 円	

(4) 利用者の概要(11月 2日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	70歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北海道社会事業協会岩内病院、吉田歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「そよかぜ」岩内は、代表者が親を介護した経験から高齢者福祉を通じて町に貢献したいとの志により設立したものである。町の中心街に位置し、交通の便がよく、店舗の一部を改造したホームの2階のリビングからは賑やかな街路が見下ろせて、利用者を退屈させない。共有空間、居室とも広々としてゆったり落ち着ける雰囲気である。階段には電動昇降機も設置されている。施設長は特別養護老人ホームや障害者施設などで福祉行政と現場の経験が豊かであり、管理者も認知症の介護歴11年というベテランである。職員は明るく気さくで、互いの信頼関係が厚く、離職がほとんどないため、利用者とも和やかな馴染みの関係が築かれている。設立の当初から地域に溶け込むことを重視し、近隣の商店街と友好的な関係を築きあげている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善提案に基づいて、運営推進会議の回数を増やし、家族向けのそよかぜ便りに利用者個別の情報を加え、協力病院の管理栄養士のアドバイスを受けるなどの改善を行った。家族意見の記録整備や重度化終末期の方針確立は取り組みの途上である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員が参加して自己評価の項目ごとに、前年の外部評価も参照しながら討議し、自己評価を行った。改善課題に結びつけるとともに、現状の見直し、評価に役立てられている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議では、利用者の介護状況、行事、外部評価の改善事項、災害対策や協力体制などについて報告し、話し合わせ、多くの意見交換やアドバイスが行われて、運営に役立てられている。現行の3ヶ月ごとから、2ヶ月ごとに回数を増やすことになった。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 玄関に苦情箱を設置し、運営推進会議のほか年に2回家族会議を開き、率直な意見を引き出すよう努めており、また家族の来訪時などには日ごろから意見の聞き出しに努めている。苦情記録簿は整備されているが、実際に記録に取り上げられる事例は少なく、大事に至らないものについてはその場で対応、処理されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入してジギスカンパーティーや町内の清掃(クリーンナップ作戦)に参加し交流している。近隣商店街の「手作り市」には作品を提供し、友好的な関係を築いている。老人会とは、発表会を見に行くなどの付き合いはあるが、参加できる活動が少ないとのことで加入には至っていない。災害時の協力体制についてもよく話し合われている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「住み慣れた町、住み慣れた地域、高齢であっても安らぎと喜びのある日々を、その人らしく過ごしていただきたい」という、独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は運営規程に掲げられているほか、ホーム内、玄関、詰め所、台所に掲示され、会議の折やケアプランを作る際に参照されている。職員は理念をよく理解し、常日頃念頭に置いて勤務に当たっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入してジンギスカンパーティーや町内の清掃（クリーンナップ作戦）に参加し交流している。近隣商店街の「手作り市」には作品を提供し、友好的な関係を築いている。老人会とは、発表会を見に行くなどの付き合いはあるが、参加できる活動が少ないとのことで加入には至っていない。災害時の協力体制についてもよく話し合われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が参加して自己評価の項目ごとに、前年の外部評価も参照しながら討議し、自己評価を行った。改善課題に結びつけるとともに、現状の見直し、評価に役立てられている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の介護状況、行事、外部評価の改善事項、災害対策や協力体制などについて報告し、話し合わせ、多くの意見交換やアドバイスが行われて、運営に役立てられている。現行の3ヶ月ごとから、2ヶ月ごとに回数を増やすことになった。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場には事務手続きなどのほかにも頻繁に訪問し、各種の相談を持ちかけ、助言を得て、運営に役立てている。役場の対応も熱心で、親密な関係が作られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、家族宛てに通信誌「そよかぜ便り」を発行し、利用者の生活状況、レクリエーション報告、行事予定、さらに個人別に家族への連絡事項を載せている。家族の来訪は頻繁で、少なくとも月1回以上はあるので詳細な報告ができています。健康状態など特に異変があった場合は、その都度電話で連絡している。		職員の異動は年2回の家族会で報告しているとのことであるが、できれば毎月の「そよかぜ便り」で時期を逸せず、本人挨拶などとともに掲載することを期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置し、運営推進会議のほかに年2回家族会議を開き、率直な意見を引き出すよう努めており、また家族の来訪時など日ごろから意見の聞き出しに努めている。苦情記録簿は整備されているが、実際に記録に取り上げられる事例は少なく、大事に至らないものについてはその場で対応、処理されている。		家族会では、職員が座を外し、家族のみで話し合える場を設けることによって、率直な意見が出やすい場面設定を期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員間の信頼関係が厚く、離職が少ない。代わる場合は周りの職員が共同で混乱のないように対処しているが、いくぶん淋しがる利用者がいても、大きなダメージになることはない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報をもとに適宜、新しい職員を優先的に、毎月2~3人くらい受講させている。受講者には旅費、参加費を支給し、勤務扱いとしている。受講した職員は内部で報告研修を行う。世情の動向などに応じて随時、必要な内部研修を行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内に同業事業所は他にないが、数年前に近隣のグループホームと相互訪問実習を行ったことがある。札幌も含め、近隣市町村の同業者との定期的な交流の機会を検討中である。		近隣市町村との交流の機会が実現することを期待したい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	医療機関からの入居というケースがほとんどで、その場合は職員が医療機関を訪問して説明するが、十分な納得に至らないケースも少なくない。自宅からの入居の場合は事前見学を行って馴染みと納得を得られるように努めている。入居当初は職員がなるべくそばにつき、他の利用者仲間に入れるような配慮をする。状況に応じて一時帰宅をすることで安心してもらうこともある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の知恵や経験から多くを学ぼうとする意気込みを持って臨んでおり、町の昔の情景や風習を教わり、調理方法などの指導を受け、昔の歌なども教わりながら共に楽しんでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の思いが最も大切という基本的な考えのもとで、日ごろ利用者の気持ちを汲み取る努力を続けている。多くの利用者は普通に言葉によるコミュニケーションが取れるが、そうでない人も表情や態度を注意深く観察して思いを察している。センター方式によるアセスメントも有効に活用している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族の要望や医療情報、日常の介護記録などを基本に、担当職員と計画作成者が暫定計画を作成する。暫定計画は会議を開いて全職員で検討し、正式な介護計画を作成し家族の同意を得ている。利用者に応じて本人に介護計画を説明し、現在数人からサインをもらっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的には3ヶ月ごとに見直しを行っているが、毎月定期的に話し合いを持つ事で利用者の変化を早く見極め、適切な対応ができるように支援している。生活リズムの変化や精神面の状況により随時見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>介護申請や生活保護手続きなど、家族や本人の代行で行う事がある。家族の状況に応じて、受診送迎や同行を行っている。利用者の希望に応じて喫茶店や美術館、コンサートなどに出かけたりと柔軟に支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医の継続受診は、家族や利用者と相談して決めている。受診時は、健康情報を医師に提供して適切な医療が受けられるように支援している。健康面での対応が分からない時は、医師に連絡を入れて随時指示を受け、適切な対応ができるように配慮している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>家族や医師と話し合いを行いながら、一度看取りを行った事はあるが、事業所として重度化や終末期に関しての方針はまだ決められていない。</p>		<p>重度化や終末期に向けた事業所の方針を明確にしたうえで、家族と書面で確認し方針を共有するよう期待したい。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>繰り返し「分かった？」などと訊く事が利用者の誇りを損ねる事に繋がるので、職員はお互いに気を付けて言葉かけするように配慮している。個人記録は事務所に鍵をかけて保管し、日々記録する書類も部外者の目に触れない所に保管している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事時間以外は特別決められた日課はなく、その日に応じてレクリエーションや外出などの計画を立てて出かける事もある。買い物や公演鑑賞、入浴など利用者の希望に応じて支援できるように配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、職員が利用者の希望を聞きながら、栄養教室で学んだ事を基本にして1週間ごとに作成している。利用者の状況を把握しながら、調理や片付けなどを手伝ってもらうようにしている。円卓を数卓配置して食べるペースで座る場所を分け、それぞれの利用者が職員と共に楽しくゆっくり食べられるように工夫している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきに入浴日を設定しているが、利用者の希望があれば随時入浴できるように配慮している。夏場は入浴日以外の入浴やシャワー浴を行い、利用者の衛生面に配慮している。職員の見守りで一人での入浴を楽しんでいる利用者もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望で全員で外出したり、折り紙やオセロ、計算問題などを行う事で気晴らしをしたり、ボランティアで訪問するオルガンや二胡の演奏を楽しむにしている。年間行事や、おはぎ作りなどを職員と一緒に利用者は楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入浴日以外の天気の良い日は、バスターミナル方面や近隣を散歩している。利用者全員で、ジンギスカンや回転寿司などの外食にも出かけている。冬季はショッピングセンターやホームセンター、文化センターや図書館など、できる限り戸外に出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ施錠している。階段の所の暖簾に鈴を付けて利用者の出入りを把握し、出かけようとする時は、声をかけたり一緒に外出して安全面に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力の下、日中、夜間の火災を想定して避難訓練を年2回行っている。救急救命法の講習は、全職員が受講している。1階の商店には災害時の協力要請を行い、連携が取られている。運営推進会議で地域住民の災害訓練参加の話も出ているが、まだ実現には至っていない。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量、水分摂取量は介護記録に全員記録して把握している。水分摂取量が少ない利用者は介護計画に載せ、ジュースやゼリーなどで必要量が摂取できるように配慮している。今年度は、協力医療機関の管理栄養士に献立を見てもらい、栄養管理に関するアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は大きな窓に囲まれ、冬季も暖かな日差しが差し込んでいる。利用者の介護度の変化により装飾も難しくなりつつあるが、できる限り室内でも季節感が感じられるように工夫がなされている。手作りの大きな日めくりを壁に掛け、利用者が日にちを確認しやすいように工夫がなされている。対面式の台所からは、食事の支度の様子や匂いを感じる事ができ、常に生活感が感じられるように工夫がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には花の名前を付け、入口に利用者の写真を飾る事でそれぞれの利用者が自分の部屋を認識できるような工夫がなされている。室内にはベッドや椅子、タンスなど使い慣れた家具や観葉植物など好みの物が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるように工夫がなされている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。